

第2学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 友達と助け合って 低学年2ー(3) 信頼・友情
資料名 「モムンとヘーテ」 (光文書院)

2 主題設定の理由

○ 本学級の児童は、明るく素直で、友達と楽しく一緒に遊んだり学習したりすることができる。また、友達とともに過ごすことに楽しさや喜びを感じている様子が見られる。しかし、時には自分の気持ちが先行してしまい友達の気持ちを考えることができなかつたり、ライバル意識から心ない言動をとってしまったたりするなど、友達と助け合い仲よく行動できない児童もいる。

そこで、相手の立場や気持ちを理解できるようになるこの時期に、自分の行動を振り返り、より素直な気持ちで友達と接しようとする態度や友達を大切に思う心情を育て、友達と仲良く助け合っていこうとする態度を育成することは意義深いと考える。

○ 本主題は、「友達と仲よくし、助け合う」ことを主なねらいとしている。

助け合うとは、相手のことを大切に思い、相手の気持ちや立場を考えて言葉をかけたり行動したりしあうことである。私たちは互いに支え、支えられながら生きている。中でも友達は、児童にとっても密接なつながりのある存在であり、日々様々な経験をともにしている。しかし、身近で親しい存在であるだけに、心のすれ違いも起こりやすいのも事実である。

そこで、友達との心のすれ違いを経験しても、それらを乗り越え、互いの存在の重要性に気付いたり、友達のよさを感じたりし、友達と仲良くすることや友達と助け合うことの大切さに気付かせることは大変意義深いと考える。

○ 本資料は、森の小人の物語で、モムンが、ヘーテから栗の実を独り占めにされたものの、自分を案じてくれる大切な友達であるヘーテを助けるという話であり、相手の気持ちを考え、互いに信頼し助け合っていこうとする友情の深まりを感じることでできる資料である。

本時指導にあたっては、モムンの心情に焦点をあて、役割演技や動作化を通して、友達のヘーテのことを考えて心が揺れ、葛藤を経て徐々に気持ちが変化していくモムンの様子をとらえさせることで、ねらいとする価値に迫っていきたい。導入では、友達と喧嘩をしたり一緒にいて嫌な気持ちになったりしたことを想起させ、本時のめあて「友達を大切にすることについて考えよう」へとつなぐ。展開1では、モムンの心情に視点をあてて考えさせる。その際、動作化を通してヘーテに栗の実を独り占めされたモムンの気持ちを、色うちわや役割演技を通して心を揺さぶられて葛藤しヘーテを助け、やがて友達の大切さに気付いていくモムンの心情をとらえさせる。展開2では、これまでの自分たちの生活の中で、友達と心のすれ違いがあったが最後には仲直りができてうれしかった経験を振り返り、価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、教師の子どもころの体験を聞くことによって、価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

友達との心のすれ違いがあってもそれらを乗り越え、友達を大切にしようとする心情を育てる。

4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第2学年〇組教室において

5 準備 資料「モムンとヘーテ」の紙芝居、ペープサート、くりの実と皮、木、言葉のカード、道徳ノート、効果音(大雨)、色うちわ、児童の写真

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 友達とけんかをしたり、一緒にいていやな気持ちになったりした経験を想起し、そのときの気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ やめて。 ○ もう嫌いだ。 <p style="text-align: center;">めあて _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">友だちをたいせつにするところについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてにつなげるために、モムンの気持ちに共感できるよう、自身の経験から、もう嫌いだ・もう遊びたくないなどの気持ちを思い起こすようにする。
展 開 1	<p>2 資料「モムンとヘーテ」を紙芝居とペーパーサートで読み、モムンの気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) ヘーテにくりのみを全部持っていかれ、しかたなく皮を家に持ち帰るモムンの気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 独り占めするなんてひどい。 ○ もうヘーテなんか嫌いだ。 <p>(2) ヘーテの言葉を聞いて黙っているモムンの気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ヘーテの言葉を聞いても黙っていたモムンは、どんなことを思っていたでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今さら言われたって知るもんか。 ○ 心を込めて謝ってくれているな。許してあげようかなあ。 ○ やっぱりヘーテは大事な友達だから助けたい。 ○ ヘーテをおいては行けないよ。 <p>(3) 舟に乗って2人で木の根を離れていくときのモムンの気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 助けてよかった。 ○ これからもヘーテと仲良くやっぺいこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読を通して、資料の概要をつかませる。 ○ モムンの気持ちを共感的に理解させるために、くりを切り、実を取り出す動作化を取り入れる。また、「栗の実は、僕がみんなもらおうよ。そのかわり、皮を君にやろう。」というヘーテのセリフに注目させる。 ○ 葛藤する気持ちを表現させるために、許す(青)と助ける(赤)で色うちわを用いる。 ○ モムンの気持ちに迫らせるよう、教師がヘーテ役、児童がモムン役になり役割演技をさせる。 ○ ヘーテを助けようか悩むモムンの気持ちに共感できるよう、ヘーテ役として揺さぶる。 ○ 価値の分類をした座席表をもとに机間指導を行い、意図的指名をすることで価値に迫らせる。(許さない⇔許す・友達だから) ○ モムンの思いに迫らせるよう、動作化をし、挿絵のモムンの晴れ晴れとした表情に気付かせる。 ○ 助け合いに目を向けさせるため、岸についてからのヘーテについても触れる。
展 開 2	<p>3 自分の生活を振り返り、友達と最後には仲直りし、よかったなあと思った経験を想起し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喧嘩はしたけれど、一緒に遊んで楽しかった。 ○ 喧嘩をすることもあつたけれど、○○君とはずっと友達でいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な場面を想起させるために、児童が友達と仲良くしている場面を撮影した写真を提示する。 ○ 友達の大切さを改めて実感するため、そのときの気持ちも書くようにする。
終 末	<p>4 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達を大切にしようとする意識の継続を図るために、友達と仲直りをし今でも大切にしている話をする。

7 板書計画

めあて
友だちをたいせつにするところについて考えよう。

モムンとヘーテ

じぶんをふりかえって
友だちと、さいごにはなかなおりしてよかったなあと思ったこと

・今さら言われたって知るもんか。
・ゆるそうかなあ。
・やっぱりヘーテをおいては行けないよ。

ひとりじめなんてひどい。
・もうきらいだ。

……。

みは ぼくがみんなもらうよ。
かわは きみにやろう。

きょうのこと ごめんね。

きみは、ふねで どこかへにげていくほうが いいよ。

いっしょに にげよう。
にもつは すてるんだ。

モムン

ヘーテ

8 道徳ノート

どうとくノート
二年 ぐみ

めあて
友だちをたいせつにするところを 考えよう。

モムンとヘーテ

一 ヘーテのことばを聞いてもだまつていたモムンは、どんなことを思っていたでしょう。

きょうのこと
ごめんね。

きみは ふねで
にげていくほうがいいよ。

二 友だちと、さいごにはなかなおりして、よかったなあと思ったことを思い出しましょう。

……